

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

***森下博三による太陽H α 像写真を収蔵**

森下博三氏は、乗鞍コロナ観測所建設に尽力され「かもしか仙人」と呼ばれた方であった。乗鞍山頂近くにコロナ観測所建設が始まった1949年に気象台から東京天文台に移られ、その強靱な体力、精神力で大活躍された一直線で、妥協を知らない人柄だったそうです。氏は1997年71歳で逝去されている。今回収蔵したH α の太陽像もその情熱があふれるような写真である。写真は9枚の写真を合わせたものになっている(写真1)。

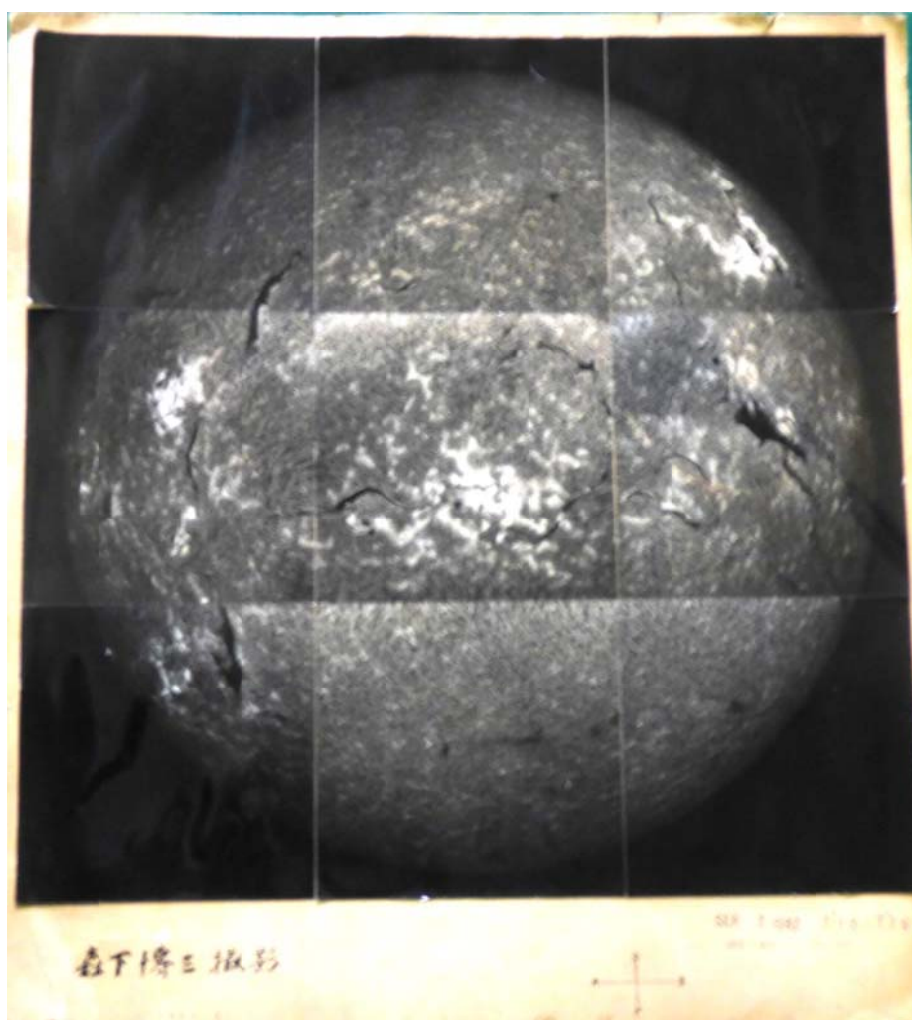


写真1

この写真は、元乗鞍コロナ観測所長であった日江井栄二郎名誉教授からアーカイブをやっている筆者に託すのが良からうと譲渡頂いたものである。この画像は国際的にも評価され、引用されたことも多かったと聞く。撮影日時は1982年9月7日7時15分～7時19分

である。太陽のシーイングは大地が暖まらない早朝が良いと言われており、この写真も勤務時間の始まる前の時間に撮影されている。

この写真の9枚、それぞれをスキャナーで取り込み、繋ぎこんで一枚にした画像が写真2である。9枚の写真はあまり厚くない厚紙に糊付けされていて、凸凹が激しく反射ムラが入り写真撮影が非常に難しい。

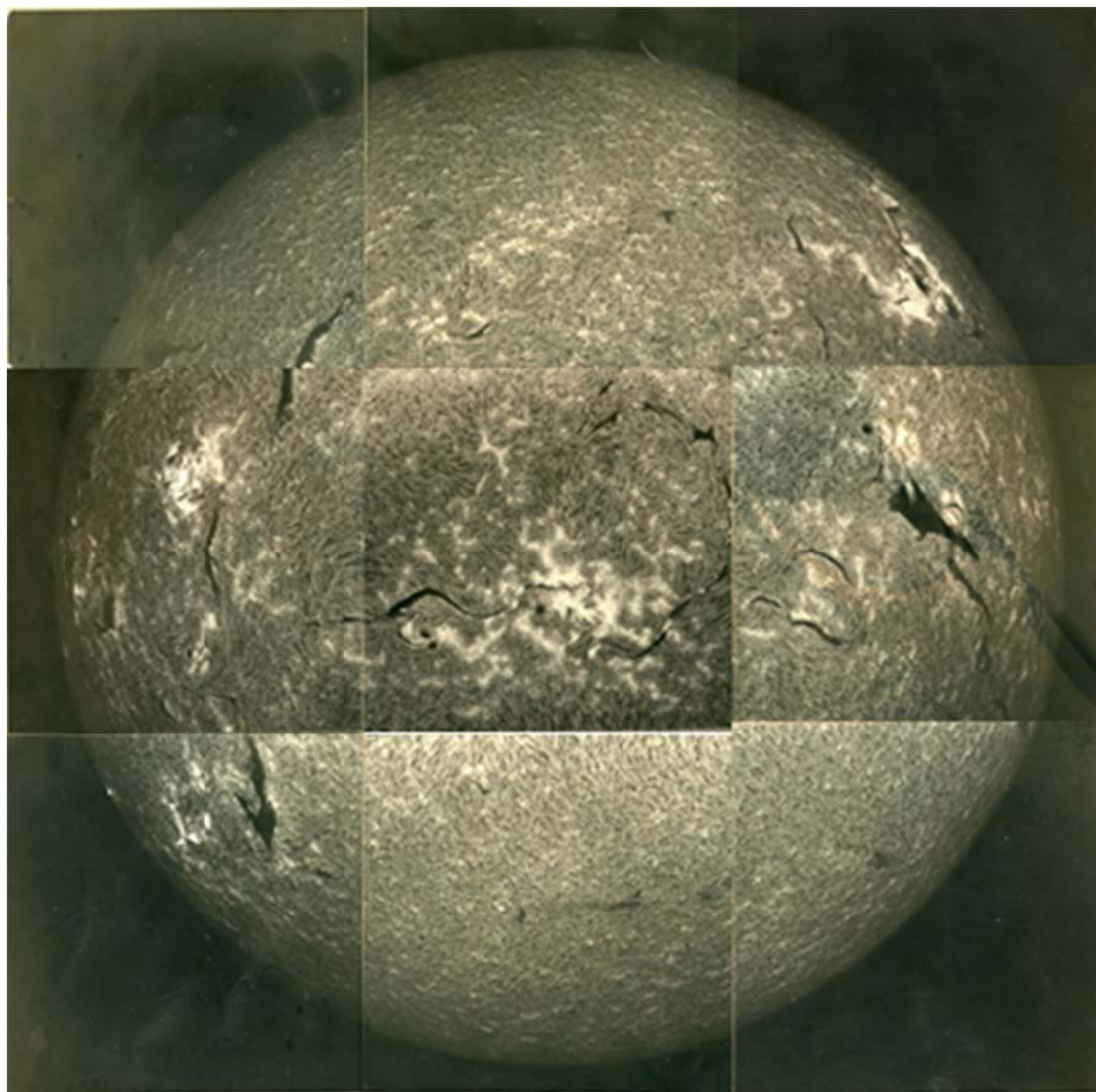
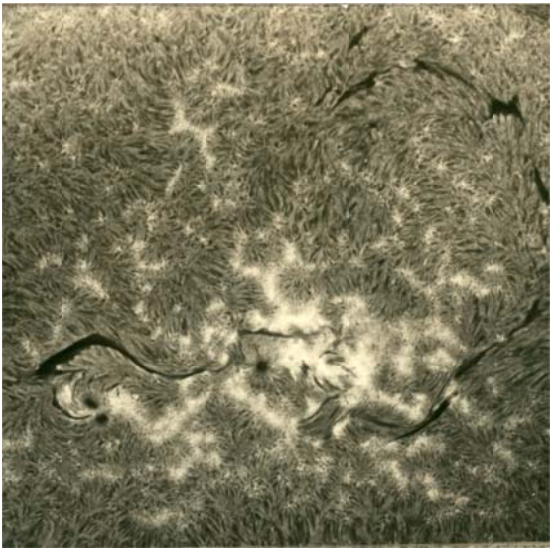
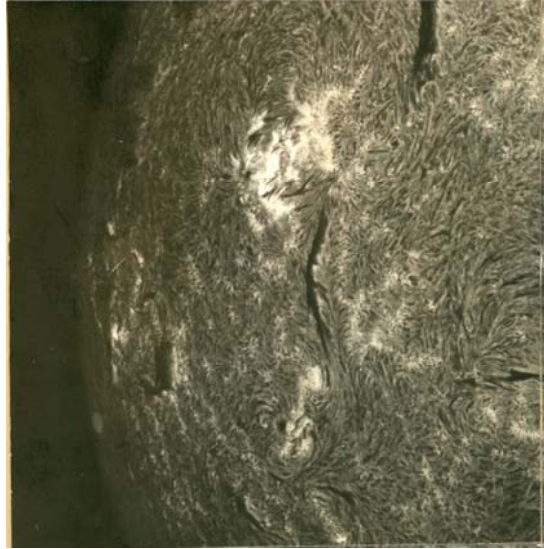
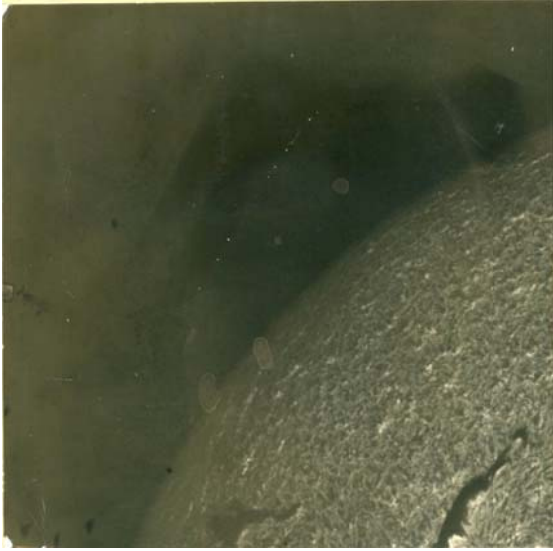
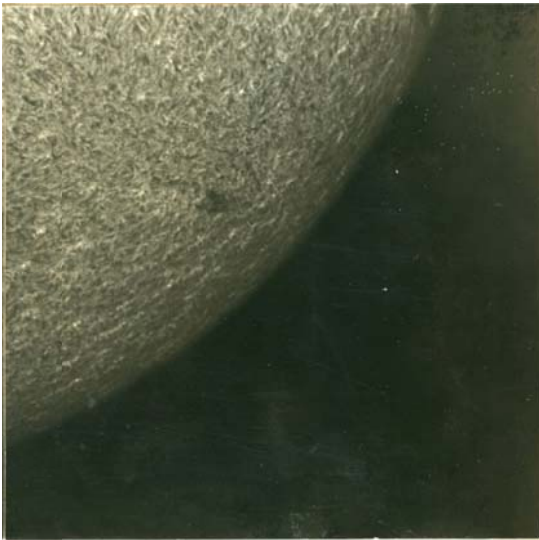
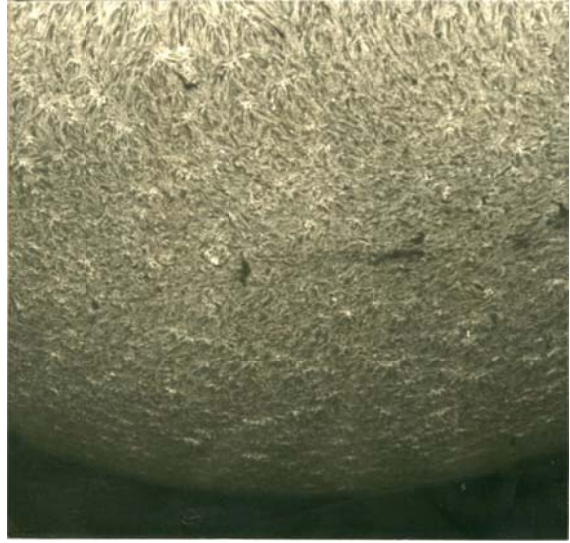


写真2

日江井名誉教授から氏の H α 写真は世界的な評価を受けたと聞いたが、1987 年に「Selected Solar H α Photographs」を出版され、世界各国に紹介され高い評価を受けたのであった。今回収蔵した写真は、その代表的な写真であろう。写真2ではこの森下博三氏の写真の迫力が伝わらない。そこで、9枚の1枚ずつを紹介したいと思う。

次ページからの9枚(写真3)であるが、これでも十分な迫力は伝わらないのが残念である。写真5として中部をさらに大きくして紹介したい。





この9枚 写真3

写真4

森下博三氏が亡くなった1997年12月に氏の遺稿を集めた「氷層の山」という冊子が発行された（写真4）。乗鞍コロナ観測所長を務められた日江井栄二郎による「はしがき」に氏のことが要領よく紹介されている。

はしがきの中に次の文章がある。

「コロナ観測所がまがりなりにも観測所として活動をはじめた頃から、やや余暇ができた仙人は太陽の写真を撮りはじめた。持ち前の研究熱心とカメラ好きから、地球大気の揺らぎの少ない時をねらい、特別のフィルターを使って良質の太陽像を撮りまくった。その画像は“MORISHITAの太陽像”として世界の天文学の専門誌や教科書に掲載され、海外の科学博物館にも展示されている。」

氏の撮影されたH α による太陽像はこのように高く評価されていたのである。そのオリジナルが収蔵できたことは喜びに堪えない。

次ページにこの9枚の画像の中央部を写真5として紹介する。

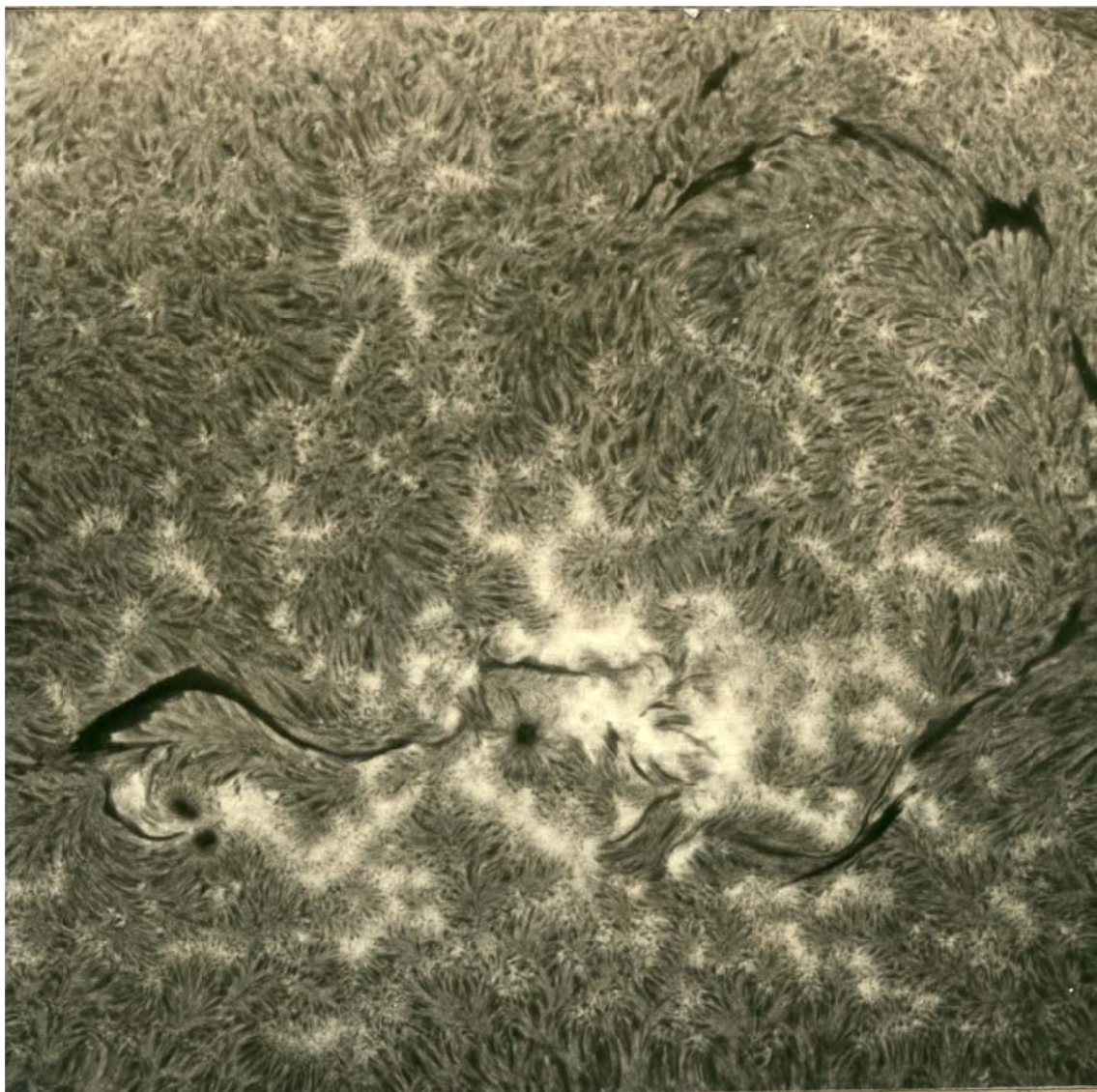


写真5 H α による太陽画像の中心部

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp